

医学科卒業後の進路は大きく分けて三つあります。卒業までに進路を選択し、進路に応じた学習が始まります。卒後10年間は基本的学習が続き、その領域をリードしていくための学習は一生続きます。

1 臨床医・専門医へ

卒業生の多くが目指すのはやはり臨床医や専門医です。一般的には大学病院などの指導体制が整った病院で研修、診療、研究を行い、高度な専門的技能や能力を磨いていきます。専門医の資格を取得し、さらに大学院に進学してすぐれた臨床研究を行い「医学博士」となることが望めます。

2 医学研究者・教育研究指導者へ

先進各国における生命科学研究の主要な担い手は、医学研究院・医学部医学科の研究者です。医学科卒業後は大学院に進学し、専門的技術や能力の基盤を築きます。研究者・教育研究指導者にとって「医学博士」となるのはその最初の通過点です。医学科在学時から大学院博士課程の科目を履修できるMD-PhDコース（解説p.19）の選択を推奨しています。

3 専門職へ

公衆衛生、国際保健、医療行政などで活躍する専門職です。エイズや人獣共通感染症など、国境を越えて広がる新たな疾患に対する疫学調査や予防への取り組み、また医療保険制度など医学医療制度を研究し、施策を提言します。2と同様に、卒業後は大学院へ進学し「医学博士」となることがその第一歩であり、MD-PhDコースの選択を推奨しています。

履修モデル



※1 初期臨床研修を修了していなければ診療に従事することはできません(医師法第16条)。

※2 新専門医制度(2018年4月開始)による専門研修専攻例。研修の期間・内容は、基本領域(内科や外科など19領域)ごとに定められた専門研修プログラムにより異なります。専門医になるためには専門研修を修了する必要があります。

★専門研修最終年に博士課程の履修を開始する例

教員からのメッセージ

人間性豊かな医師、医学研究者を目指しましょう!!

北海道大学は190万都市 札幌の中心部に広大でかつ自然豊かなキャンパスを有し、医学部医学科も含め多くの学部や大学院、研究施設がこのキャンパス内に配置されています。北大医学部医学科は2019年に創立100周年を迎えた歴史と伝統あるわが国屈指の医学部であり、つぎの100年に向けて休むことなく歩み続けています。

2023年現在、核酸医療、再生医療、抗体医療、遺伝子治療、ゲノム医療、AI医療など新しい医療の開発の流れが加速しています。今までは難病といわれてきた疾患にも新しい治療法の開発が進み、一昔前とは隔世の感があります。私たちもその開発の中心的役割を担っていると自負するところです。

しかしどんなに時代が変わって、新しい技術が出現したとしても、それを扱うのは“人”であることを忘れてはいけないと思っています。私たち北大医学部医学科の理念は「世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する」です。医学生の中に、医学のみならず、文化や歴史、社会学など幅広い領域を積極的に学んでいただきたいと思います。また、北海道大学では部活動も活発な活動をしています。6年間の様々な学びや経験をとおして、人格と教養を磨き、高い倫理感をもち人間性豊かなよき社会人に、そして、よき医療人になっていただきたいと思います。実際にみなさんの先輩達、医学部医学科の卒業生は北海道のみならず、日本全国、世界で活躍し、人類の健康と福祉に貢献しています。

私たちは、みなさんの将来が輝かしいものとなるように全力で支援していきたいと思っています。みなさんの入学を心からお待ちしております。



矢部 一郎先生
医学部医学科教務委員会委員長
(神経内科学教室)

臨床研修医からのメッセージ



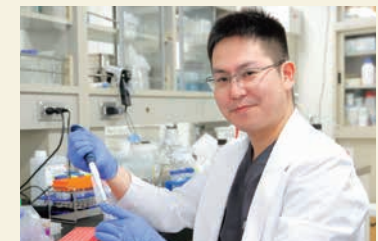
豊島 魁さん
北海道大学病院
初期臨床研修医

北海道大学医学部の6年間

こんにちは。私は北海道大学医学部を卒業後、現在初期研修医2年目として北海道大学病院で研修をし、とても充実した毎日過ごしています。

北海道大学は札幌の中心部にありながら自然に囲まれた広大なキャンパスが特徴です。総合大学のため、様々な学部の学生と北大祭やサークル活動で交流する機会があります。6年間の学生生活は、1年生は総合教育部として他学部の学生と同じクラスに配属されます。教養の授業だけでなく、様々な行事もクラス単位で行われるので、他学部の友人がたくさんできます。2年生からは解剖実習や組織学、病理学といった基礎医学の授業が始まります。4年生からは臨床実習として各科のローテーションが始まり、実際の患者さんに問診や診察をさせていただくことや、カンファレンスでの発表など様々な経験を積むことができます。また5年生からは市中病院での研修も経験することができます。卒業後の進路は私のように北海道大学病院で研修を行うものもいれば、道外の病院で研修を行うことなど自分に合った研修を選択することができます。あなたもぜひ北海道大学で充実した大学生活を送ってみてはどうでしょうか？

大学院生からのメッセージ



工藤 彰彦さん
大学院医科学博士課程3年
神経内科学教室

研究を通じて臨床に活かせる学びを大学院で

私は2015年に北海道大学医学部を卒業後、2017年から神経内科医として大学病院、市中病院で働きました。2020年から大学院へ進学し、現在は3年目です。

神経疾患において新しいエビデンスを作りたいと考えて、日々研究を行っています。私は、中でも自己免疫性小脳失調症の臨床研究・基礎研究に取り組んでいます。臨床研究では本疾患の臨床像を明らかにするため当教室の症例をまとめ、現在英文誌に投稿中です。さらに当教室では本疾患の全国調査を開始しており、それに関わることで大変貴重な経験をさせて頂いています。

そして自己免疫性小脳失調症に関連する自己抗体の測定系の確立や、新規自己抗体の発見に向けた実験に励んでいます。これらの基礎研究を通じて測定系の問題点など、今までは気が付かなかった事にも目が向くようになり、この視点は臨床の場でも役に立っています。

今の目標は、一つでも多く新しい知見を世界に発信することです。そのための熱意のある指導を教官の先生方から受けていると感じます。例えるなら「宝探し」のような日々ですが、実験に成功し、少し前進するたびに喜びがあります。大学院での生活は時間と情熱を注ぐだけの価値があるものです。ともに学べる仲間が一人でも増えると嬉しいです。